

2021年度秋季大会報告

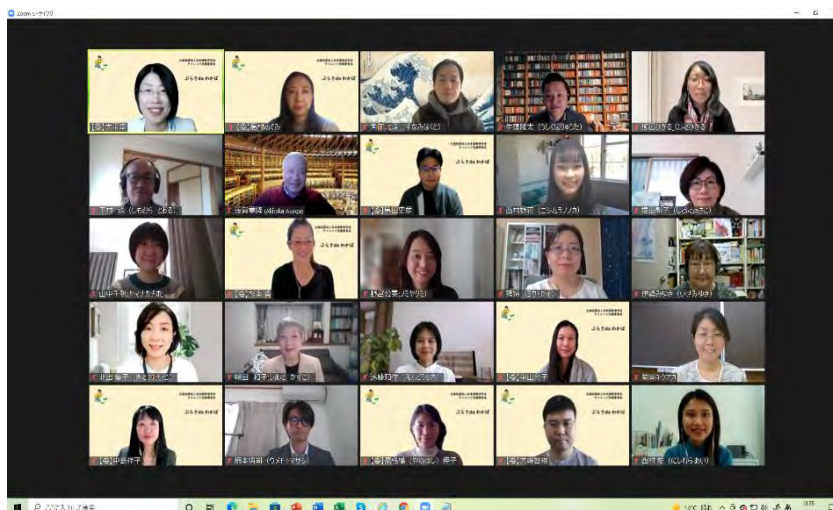
チャレンジ支援委員会「ぶらさ da わかば」報告書

チャレンジ支援委員：大嶋、大平、高村、平山、毛利

2021年11月28日 12:30-13:30 オンライン開催

日本語教育の世界で「わかば」な人に、先を歩く「センパイ」との対話、交流の機会を提供する「ぶらさ da わかば」第11回目が実施されました。今回は、前回の春季大会同様、オンラインでの開催となりました。

センパイ登録をしてくださっている会員の中から、7名の方にセンパイとしてご協力いただき、応募された11名のわかばさん



との対話セッションを実施しました。ZOOMのブレイクアウトルーム機能を利用し、センパイ毎の7つのブレイクアウトルームにチャレンジ支援委員各1名が常駐し、万が一のトラブル等に備えました。同時にメインルームにも全体を把握するために委員が待機し、各ルームに残り時間を知らせる、各ルームに常駐している委員からの進捗状況を確認しながら全体を把握する、という体制を整えて実施をしました。

結果として、幸運なことに今回は通信環境の不具合等もなく、わかばさん、センパイが入室を滞りなくしてくださったおかげで、スムーズな運営ができました。空間的・時間的制約を超えてつながれるというオンラインのメリットが、最大限に活かされた企画となったと思います。

事後アンケートでは、ご参加いただいたわかばさん・センパイ双方から高評価をいただきました。特に、わかばさんからは「オンラインだからこそ、話しやすい」「遠方のセンパイと話ができる貴重な機会だ」などオンライン開催の良さや、「わかばさんが2名、センパイが1名のルームだったが、それが話しやすかった」など複数のわかばさんを配置した良さについてのコメントもありました。一方で課題も残されています。オンラインでは終了時間が明確に決まっているため、慌ただしく終わってしまうことや、1ルームにわかばさんが複数いた場合、わかばさん全員が関心の核心に触れられていたかなどについては、調査をする必要があるかもしれません。

また、広報の観点からは、より多くのわかばさんに本企画の開催を伝える必要性が挙げられそうです。参加された方は一様に高い満足度を示しておられますが、本企画に参加を希望されるわかばさんは非会員の方も多く、特にオンライン開催の場合は、対象となる層に開催の情報が行き渡りにくい点が危惧されます。実際に、知人からの紹介により本企画をはじめて知ったというわかばさんが多くいらっしゃいました。

多様な人との交流の機会が増す中で、日本語教育の重要性が改めて考えられるようになっていきます。人とのつながり、様々な分野におけるコミュニティの構築が多方面から求められている今、持続可能な運営を行っていくことで、日本語教育分野の活性化に貢献できればと思います。引き続き、本企画へのご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。